

徳島県でのビワキジラミの発生状況と薬剤防除対策

徳島県立農林水産総合技術支援センター なかにし 中西 ともあき 友章・いまい 今井 けんじ 健司・かねだ 兼田 たけみち 武典・たけち 武知 こうじ 耕二

はじめに

2012年5月に徳島県南部のビワ栽培農家から、すす病が発生したビワの枝葉の持ち込みがあった。これらの枝および葉にはキジラミ類と思われる幼虫と成虫が寄生しており、圃場においても、キジラミ類が多数寄生して、キジラミ類が排泄した甘露にすす病が発生していた。しかし、国内のビワに寄生するキジラミ類の情報が見当たらなかったことから、農研機構果樹研究所に同定を依頼した結果、キジラミ科キジラミ亜科リングキジラミ属 *Cacopsylla* の1種であることが判明した。しかし、国内に該当する既知種はなく、徳島県病害虫防除所は学名未決定のまま和名をビワキジラミとして同年7月27日付けで病害虫発生予察特殊報を発表した(徳島県病害虫防除所, 2012)。その後、本種に *Cacopsylla biwa* の学名が与えられ新種記載された(INOUE et al., 2014)。

本種は国外からの移入種である可能性が高く(INOUE et al., 2014)、発生生態が不明で防除対策もわからなかった。そこで、徳島県では発生確認直後から、関係機関と連携し、本種の分布と被害実態の把握、発生生態の解明および防除技術の確立に努めているので、今回はその取組の概要について紹介する。

I 徳島県における発生状況

本種の発生を受けて、2012年5～6月に病害虫防除所が農業支援センターとともにビワの葉裏に寄生した成虫を目視により確認する方法で分布調査を行った。その結果、徳島市、小松島市、阿南市、勝浦町、佐那河内村での発生が確認された。2013年の同時期に行った調査では、前年発生地域に加え神山町、鳴門市、上板町、石井町、那賀町で見られ、さらに2014年の調査では吉野川市、上勝町等でも発生が確認された。年々、周辺地域への発生拡大が進んでいる(図-1)。

本県のビワ栽培面積は、約10ha(平成23年産:徳島県調べ)であり、阿波市、上板町(図-2)では県内市

場向けに生産、出荷されており、その他県内各地に直売所用のビワが散在している。

また、本県では野生化したビワが道端や雑木林等で普通に見られ、庭先に植えられたビワも頻繁に見かける。本種の発生地域においては栽培樹のみならず、庭先のビワや野生化したビワにも寄生が見られる。

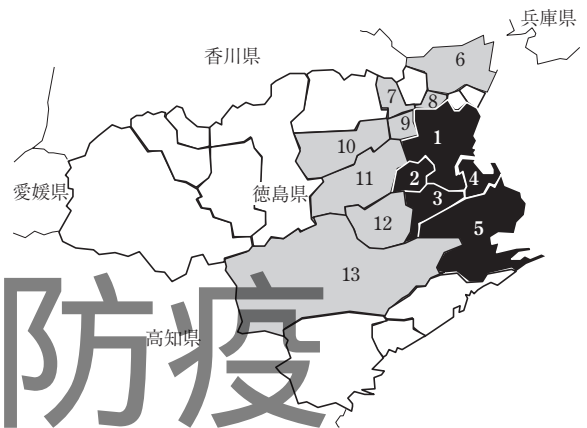


図-1 徳島県におけるビワキジラミの分布概況(2014年)

■は、ビワキジラミ発生が確認された市町村。

なお、■は2012年に多発生樹が見られた市町村。

□は、ビワキジラミの発生が確認されていない市町村。

1: 徳島市, 2: 佐那河内村, 3: 勝浦町, 4: 小松島市, 5: 阿南市, 6: 鳴門市, 7: 上板町, 8: 藍住町, 9: 石井町, 10: 吉野川市, 11: 神山町, 12: 上勝町, 13: 那賀町。



図-2 ビワキジラミ発生しているビワ園(上板町、右側が讃岐山脈南斜面)

Occurrence and Control of *Cacopsylla biwa* in Tokushima Prefecture. By Tomoaki NAKANISHI, Kenji IMAI, Takemichi KANEDA and Kouji TAKECHI

(キーワード: ビワキジラミ, ビワ, 分布, 被害, 発生生態, 薬剤防除, 徳島県)